

カヌー競技の審判資格取得講習会を開催！

4月17日(日)、揖斐川町中央公民館でカヌー競技の審判員資格取得講習会が行われました。

揖斐川町で開催される講習会は今年で4回目を迎え、昨年までに約70人が審判資格を取得し、今回は町内外から17人が受講しました。

講習会は、岐阜県カヌー協会の公認講師を招いて行われ、競技の映像や模型を交えた分かりやすい講習により、カヌー経験のない受講者も理解を深めていました。

また、室内での講習の後、平成24年のぎふ清流国体で会場となる揖斐川で実地講習が行なわれ、模擬審判を体験しました。

講習会修了後、受講した皆さん全員が、認定試験をクリアし、日本カヌー連盟公認審判員資格を取得されました。審判員の皆さんは、10月に揖斐川町で行われるぎふ清流国体リハーサル大会でも審判として参加されます。



▲昨年の東海ブロック大会でも受講者の方が審判員として活躍されました

ぎふ清流大会を紹介します！

ぎふ清流国体とともに開催される大会ですが、大会とは、全国障害者スポーツ大会のことで、障がいのある方が競技を通してスポーツの楽しさを体験するとともに、障がいに対する理解を深め、障がいのある方の社会参加の推進に寄与することを目的とした障がい者スポーツの祭典です。



揖斐川町開催競技「グランドソフトボール」ってどんなスポーツ？

揖斐川町では、平成24年のぎふ清流大会で「グランドソフトボール競技」が開催されます。グランドソフトボールとは視覚障害者の野球です。「転がしソフトボール」という呼ばれ方をすることもあります。使用球はハンドボールと似たようなボールで、中に鈴など音の鳴るものは入っていません。

チーム編成

1チーム10人制です。全盲選手が4人以上いなくてはなりません。あとの6人は弱視選手です。全盲選手は、アイシェード（目隠し）をします。弱視者や晴眼者でもアイシェードをすることによって全盲選手としてプレーすることも可能です。

投手

投手は全盲でなければなりません。そのため、捕手は手を叩くことによって投手にストライクゾーンを伝えます。言葉での指示はできません。

走塁

走塁も、全盲者にはランナーコーチが手を叩くことによって塁の方向を指示します。また、全盲選手がぶつかったりするのを避けるため、走塁用ベースと守備用ベースが分かれています。

守備

全盲選手が、ボールが動いている間に捕球すれば、ゴロであってもフライアウトと同じになります。このため、例えば外野にゴロが転がっても、すぐにヒットと断定できません。安易に次の塁に進むと思わぬ併殺となります。

最後に、何より大切なのは、「静かな野球」だということです。音が頼りですから、特に全盲選手が打席に立ったときは、絶対にベンチから大きな声を出してはいけません。

ここでご紹介したルールはごく一部です。グランドソフトボールはもっと奥の深い、楽しいスポーツです。まずは、9月に揖斐川町で開催されるぎふ清流大会リハーサル大会をぜひご覧ください。



【お問い合わせ先】

国体推進局 TEL 22-2111